

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	堺市立つぼみ園			
○保護者評価実施期間	令和6年2月6日		～	令和6年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	98名	(回答者数)	73名
○従業者評価実施期間	令和6年8月26日		～	令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数)	29名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な職種による発達支援 保育士、児童指導員、児童発達線管理責任者、 医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、 看護師、管理栄養士など	保育士・児童指導員以外の職種も給食介助などの業務 を担い、日常的にこどもの支援にあたっている。また、 診療所とも密な連携をとれている。 こどもの支援内容について、多職種で日常的に意見交 換をしているほか、クラス単位での多職種ケース検討会 議を定期的に行っている。	地域支援においても多職種がチームで支援を行う体制 づくり
2	丁寧な保護者支援、家族支援（なかまづくり）	親子療育の積み重ねを大切にし、季節の行事だけでは ない日常の場面の中で、こどもの姿や課題を保護者と共 有している。 発達や障害特性について学んでいただけるよう、保護 者学習会を計画的に行っている。 保護者同士情報交換をしたり悩みの共有ができるよ う、交流の機会を作っている。また、参観などの行事 で、きょうだいなど他の家族にも参加してもらえる機会 を作っている。	オンライン研修やICTの活用により、より多くの保護者 への情報発信。 保護者だけでなく、きょうだいへの支援（きょうだい の交流の場作りなど）の充実。
3	こどもがこどもらしく遊びを楽しみ、人との関係性を広 げていけるような生活づくり 年齢や発達課題に応じて集団や活動を考えたクラス編 成、こどもの生活を大切にしたい時間設定	一人一人が生活に見通しを持って活動できるように、 分かりやすい日課の積み重ねを大切にしている。 外遊びや全身活動に毎日取り組んでいる。 個々の興味関心にそった活動を大人や友だちと一緒に 繰り返し取り組むことを大切にしている。	法人内外での実習や研修の実施により、職員一人一人 の知識・資質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園の取り組みについての保護者や外部への発信頻度	外部発信のノウハウに精通したスタッフがおらず、日々 の業務の中で少しずつ取り組んでいるため	・ICTシステムやSNSの活用 ・担当する職員のスキルアップ
2	働く保護者の方の利用が難しいこと（こども園等と比べ 1日の療育時間が短い）	バス送迎や並行通園クラスの運営のため、早朝からや夕 方遅くまでの延長保育が困難	・利用者の希望やニーズを踏まえ、利用可能なサービ ス（週1日のクラス等）の案内を行う ・他機関との連携も含めて保護者の就労を支援する

3	提供しているサービスのうち並行通園クラスなどいくつかにおいて、支援期間が決まっていること	多くの市民にサービスを利用していただく、という堺市の意向による	・利用者の希望やニーズを踏まえ、市と協議していくと共に、他のサービスへの移行を支援 ・関係機関との連携強化 ・法人内では相談部門や診療部門に支援がつながるよう取り組む
---	--	---------------------------------	---

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 堺市立つばみ園

公表日 令和6年 10月 30日

利用児童数

78

回収数

62

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	61		1	0		
	2	職員の人数や専門性は適切であるか	51		8	3	・現在の子ども的人数なら不安はない。 ・職員数が少なく、オーバーワークが心配。増員が必要	・職員の欠員については、充足できるよう採用にむけて取り組んでいる。 ・欠員以外の増員等職員の必要人数については、堺市と協議していく。
	3	園の生活の流れは、子どもたちにとって分かりやすいか	62		0	0		
	4	園では子どもの状況に応じて、バリアフリー化やコミュニケーション等への配慮が適切になされているか	59		2	1		
	5	園は子どもたちが安全に心地よく過ごせる環境になっているか	55		6	1	・施設の老朽化が目立つ ・トイレが寒く、水が冷たかった。	堺市と協議しながら修繕を進めている。
	6	遊具やおもちゃは子どもたちの発達や興味に合わせたものになっているか	58		2	2	・先生がその子に合ったおもちゃを選んでくれて良かったです	
適切 な 支 援 の 提 供	7	個別支援計画は、子どもの願いや保護者の思いが適切に反映されているか	62		0	0		
	8	個別支援計画には目標に対する具体的な支援内容が設定されているか	61		1	0		
	9	日々の療育は個別支援計画に沿った支援が行われているか	60		0	2		
	10	日々の療育プログラムは固定化しないよう工夫されているか	59		2	1		
	11	職員は子どもの状況に応じて分かりやすくコミュニケーションをとっているか	61		0	1		
	12	保育園やこども園、幼稚園等との交流や地域の子どもたちと活動する機会があるか	37		12	13	・コロナ禍だったこともあるのか他のこども園などの交流はない。今年からクラスによっては交流が再開していると聞く。交流がない状況に不満は感じているわけではなく、安全第一で運営してほしい。	・コロナが5類に移行して以降、地域のこども園との交流保育を再開している。
保 護 者 へ の 説 明	13	園の運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	55		4	2		
	14	個別支援計画の説明はわかりやすかったか	62		0	0		
	15	保護者に対して研修や学習会など保護者向けプログラムが行われているか	56		2	4		
	16	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	62		0	0	・ケアについては看護師の方が良く話を聞いてくれています	
	17	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	61		0	1		
	18	保護者会活動への理解や協力など保護者同士の連携が支援されているか	50		5	7	・保護者同士話せる機会を増やしてほしい	・親子登園の機会に交流会を実施するなど、保護者同士が話せる機会を設けている。令和6年度より感染予防対策のための制限（回数や人数）を無くしている。
	19	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているか	59		0	3		

等	20	相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	57		2	3		
	21	保護者との意思の疎通や情報伝達において、分かりやすく伝えるための配慮がなされているか	60		0	2		
	22	保護者に対して、定期的にお便りや掲示物を通じて活動概要や行事予定を伝えているか	62		0	0		
	23	自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	50		0	12		
	24	個人情報の取扱いに十分注意されているか	57		1	4	・園児全員のバス送迎時刻が伝えられているが必要ないと思う。 ・写真撮影禁止等、明示されているので安心	・バス送迎時刻については、令和6年度よりコース毎のお知らせに変更。
非常時等の対応	25	緊急時の対応、防犯対策、感染症への対応等について、保護者に周知・説明されているか。	55		3	4		
	26	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか	53		1	7		
満足度	27	子どもは園に通うことを楽しみにしているか	61		0	1		
	28	園の活動や取り組みに満足しているか	61		0	1		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 堺市立つばみ園（並行通園クラス）

公表日 令和6年 10月 30日

利用児童数

20

回収数

11

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10		1	0	・6人で活動するには狭く感じた。	保育室で実施するため、取り組み内容によって場所を工夫するなど今後も安全に配慮しながら取り組んでいく。
	2	職員の人数や専門性は適切であるか	11		0	0		
	3	園の生活の流れは、子どもたちにとって分かりやすいか	10		1	0		
	4	園では子どもの状況に応じて、バイアフリー化やコミュニケーション等への配慮が適切になされているか	10		1	0		
	5	園は子どもたちが安全に心地よく過ごせる環境になっているか	11		0	0		
	6	遊具やおもちゃは子どもたちの発達や興味に合わせたものになっているか	11		0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	7	個別支援計画は、子どもの願いや保護者の思いが適切に反映されているか	11		0	0		
	8	個別支援計画には目標に対する具体的な支援内容が設定されているか	11		0	0		
	9	日々の療育は個別支援計画に沿った支援が行われているか	11		0	0		
	10	日々の療育プログラムは固定化しないよう工夫されているか	11		0	0		
	11	職員は子どもの状況に応じて分かりやすくコミュニケーションをとっているか	11		0	0		
	12	在籍園での生活を把握し支援につなげているか	10		0	1		
	13	並行通園での経験が家庭での生活にいかされたか	10		1	0		
	14	並行通園が在籍園での支援にいかされたと思うか	9		2	0	・質問自体が大まかすぎて評価しにくい。	・並行通園での様子などを保護者の方から在籍園に伝えていただく場合もあるが、今後、必要に応じて、保護者の方の同意を得ながら在籍園との連携も進めていく。
保 護 者 へ	15	園の運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11		0	0		
	16	個別支援計画の説明はわかりやすかったか	11		0	0		
	17	保護者に対して研修や学習会など保護者向けプログラムが行われているか	9		1	1		
	18	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11		0	0		
	19	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11		0	0		
	20	保護者同士が交流する機会や保護者同士のつながりへの支援がなされているか	11		0	0		

の 説 明 等	21	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているか	11		0	0		
	22	相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11		0	0		
	23	保護者との意思の疎通や情報伝達において、分かりやすく伝えるための配慮がなされているか	9		0	1		
	24	保護者に対して、定期的にお便りや掲示物を通じて活動概要や行事予定を伝えているか	11		0	0		
	25	自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10		0	1		
	26	個人情報の取扱いに十分注意されているか	11		0	0		
非 常 時 等 の 対 応	27	緊急時の対応、防犯対策、感染症への対応等について、保護者に周知・説明されているか。	7		1	3		
	28	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか	6		1	3		
満 足 度	29	子どもは園に通うことを楽しみにしているか	10		1	0		
	30	園の活動や取り組みに満足しているか	11		0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
堺市立つぼみ園		令和6年 10月 30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	29	0	生活と遊びの空間づくりを工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	27	2	保育士、児童指導員を基準以上に配置している。 社会福祉士や公認心理士等の専門資格を持つ者、 看護師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、 管理栄養士等様々な職種を配置している。	募集しているが応募がない職種がある。 職員配置は堺市と協議の上で決まっているが、より丁寧な支援のための工夫をしていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	27	2	パーテーションやロッカーで分かりやすい環境作りをしている。写真等を使い、活動内容を分かりやすく伝えている。段差を無くしたり障害特性に応じた床（肢体不自由児の保育室にはマットを敷く等）等配慮している。	幼児トイレや廊下に空調がない。 施設老朽化による改修を堺市と協議しながら進めていく必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	29	0	日々の清掃や消毒で清潔を保っている。 活動内容に合わせて集会室や園庭等、様々な空間を活用している。施設修繕を適宜行っている。	施設及び設備の老朽化による改修を堺市と協議しながら進めていく必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	26	3	必要に応じて廊下や集会室等でこどもが安心して過ごせるよう、個別の配慮をしている。 肢体不自由児は、午睡や休息に個別の部屋を使用することができる。	カーマダウン等で使用できる個室がないので、部屋の使い方について、クラス間調整や職員体制によって臨機応変な工夫が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	28	1	人事評価を実施し、年度ごとに職員一人一人の業務目標設定と振り返りを行っている。自己評価については職種単位で行っている。	職員数が多いため、全職員の参画については課題もあるので、取り組み方を工夫していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	29	0	センター出入り口やHP上にご意見箱を設置し、利用者アンケートや保護者会との懇談会を実施し、保護者の意向等を把握している。 その中で把握した課題について、各職種会議や主任会議等で検討し、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	29	0	職員が意見できる場として各職種会議や職員会議を実施している。また、業務面談で上司に意見を伝えたり相談できる機会を設け、主任会議や園長所長会でその内容の共有を図り業務改善につなげている。各種相談窓口を設けている(ハラスメント、産業医面談等)	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	29	0	第三者評価を受審している。評価結果をHPにて公表すると共に職員に周知し、業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	29	0	職員研修および外部講師によるスーパーバイズを計画的に行い、個々の勤務時間に合わせてVTRで視聴できるよう工夫している。外部研修への参加も計画的に行い、研修記録の供覧等で他の職員に伝達している。自主的な研修参加も推奨している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	29	0	業務標準マニュアルをHPで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	29	0	個々のこどもに対し丁寧なアセスメントを実施し、保護者のニーズをアンケート等で聞き取った上で計画作成のための会議を実施している。医師による診断や発達検査の結果も踏まえ、計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	29	0	クラス会議の他、支援に関わる多職種でのケース検討会議を実施し、情報共有と支援内容の検討を行っている。	

	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	28	1	週1回のクラス会議で、計画の共有と支援の確認を行っている。 計画はケースファイルで管理し、子どもに関わる職員が確認できるようにしている。	短時間勤務の職員も情報共有できるように更なる工夫が必要。
--	----	-------------------------------------	----	---	---	------------------------------

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	26	1	毎日クラスでは年1回、その他のクラスも必要に応じて発達相談を行っている。標準化されたツールとして新版K式発達検査2020を実施している。担任を中心に多職種で日々の観察を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	24	5	令和6年度より支援計画に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	29	0	クラス担任・教室担当がチームでの立案を行っている。また、保育者会議でクラス間の意見交換もしながら月ごとの活動プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	29	0	こどもたちの姿に合わせた工夫を行っている。定期的に取り組のまとめを行い討議する中で、多職種の意見を取り入れ活動内容の充実を図っている。また、人事異動等でより多様な意見交流ができています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	29	0	個別・集団活動それぞれの視点を持って課題と取組を考え支援計画を作成している。活動内容によって集団の大きさを工夫している。併設している診療所で必要に応じて個別のリハビリを行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	29	0	クラス会議で保育のねらいや目的、個々への支援内容等を共有している。毎日の確認は、バス添乗や短時間勤務の職員もいるのでボード等に記入して関わる職員で共有できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	26	3	バス添乗や短時間勤務の職員もいるので必ず全員では難しいが、参加できる職員で毎日の振り返りや子どもの姿の共有を行っている。週1回のクラス会議で共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	28	1	家庭連絡票に日々の様子を記録している。日々保育日誌に記録し、その日の振り返りを行うと共に改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	29	0	毎日通園クラスでは年3回モニタリングを行い、年2回支援計画の見直しを行っている。その他のクラスも6か月に1度の見直しを行っている。	
関係機	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	29	0	クラス担任や児童発達支援管理責任者のほか、会議の内容によって適切な職種が参加することで、より丁寧な話し合いができるようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	28	0	保健センター等関係機関との連携を常に行っている。診療所を通し、医療機関との連携も行っている。相談支援事業、保育所等訪問支援事業および自立支援協議会への参画等を通して、地域と連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	27	1	週1日親子クラスでは地域のこども園等に通うこどもも受け入れている。並行通園クラスでは在籍園訪問を行ったり、必要に応じて保護者の同意のもと情報共有を行っている。毎日クラスでは移行に向けての相談援助を行い、就園が決まった際は引継ぎ（会議開催や見学の受入）を行っている。退園後は、必要に応じて保育所等訪問支援および診療所での診察やリハビリ等で支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	29	0	学校見学や体験をサポート（学校体験は職員が同行）している。また、引継ぎ（会議開催や見学の受入）を行っている。市内の教員の見学を受け入れ、障害や支援内容への理解を進めている。	

関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	28	1	各事業所や関係機関対象の施設見学会や研修(出前講座)、事業所交流会を開催している。また、地域の障害児通所支援事業所等への施設支援も実施している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	29	0	外部講師によるスーパーバイズを実施している。職員は計画的に外部研修に参加している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	25	2	令和6年度から各区の障害児支援等関係機関連絡会に参加し関係機関と情報を交流している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	28	0	年4～5回、地域のこども園とお互いの園を行き来して交流する場を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	28	0	家庭連絡票で日頃のこどもの状況を保護者と伝え合っている。送迎の際や電話でも話ができるよう意識している。親子登園の機会や個別のリハビリ現場で、こどもの発達状況や課題についての共通理解を持てるよう取り組んでいる。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	27	1	各クラスの状況に合わせて家族支援プログラムの年間計画を立て、保護者に知らせている。内部及び外部講師による学習会や情報提供を一部オンラインで実施している。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	29	0	入園前説明会や利用契約時の重要事項説明時に重要事項説明書に基づき説明を行っている。保育のねらいについてオリエンテーション等で説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	29	0	初めてご利用の際は、こどもの観察や保護者の意向の聞き取りを丁寧に行っている。引き続きご利用の際は、計画作成前にアンケートを実施し、それぞれの意向を反映できるようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	29	0	児童発達支援管理責任者による支援内容の説明を行い保護者の同意を得た後、より丁寧な確認を各クラス担任が行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	29	0	定期的に個人懇談を行う他、必要に応じて、進路や福祉サービス利用について、健康面や栄養に関すること等、適切な職種による面談と支援を行っている。診察やリハビリにおいても助言と支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	27	2	保護者会活動の支援を行っている。定期的に、毎日クラスでは日曜参観の際にも保護者交流の機会を作っている。毎日クラスでは、家族参加の行事にきょうだいも参加してもらう中で自然な交流が生まれている。	きょうだい同士の交流の機会の拡充を検討。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	29	0	クラス担任以外に担当の児童発達支援管理責任者、苦情解決責任者及び苦情受付担当者等、多様な相談窓口を周知し、相談や申入れがあれば適切に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	29	0	毎月のクラスだよりや園だよりのほか、年2回事業団だよりを発行している。HPやFBでは、給食メニューや行事等の様子を発信している。令和6年度からはICTシステムの活用を開始予定。	HPやICTシステムの更なる活用を検討。

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	29	0	職員研修を行い、個人情報保護の重要性を職員に周知。個人情報を含む書類等の郵送や配布の際はマニュアルに沿って複数の職員でチェックしている。 関係機関への個人情報提供、HP等での写真掲載について、保護者から文書により同意を得ている。	
--	----	---------------------	----	---	---	--

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	29	0	視覚的に分かりやすいように写真や絵カードを活用。書き言葉や話し言葉は分かりやすく完結な表現を意識している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	17	12	感染対策等の理由から行事等に地域住民を招待することはしていないが、地域のボランティアを受け入れる体制を整えている。近隣の施設と協同し、地域に開かれたイベント（ファインエリアフェスティバル）に参画しているほか、地域の親子が利用できる園庭開放や土曜日クラブ・にじいろクラブを実施している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	28	1	各マニュアルを策定し、訓練を実施しながら対応を職員に周知している。適時見直しもしている。保護者には重要事項説明の中で策定については知らせており、一部マニュアルについてはHPで公開している。	年度毎の見直しについての周知を迅速に行う必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	27	1	BCPを策定している。毎月の消防避難訓練に加え、地震訓練を定期的に行っている。また、年1回の消防署の立会訓練では助言指導を受けている。Web171及び災害伝言ダイヤルの体験を年1回行っている。	危機管理マニュアルは一定職員に周知しているが、策定間もないBCPについては、今後周知していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	29	0	入園前健診で、こどもの状況について確認している。緊急時対応指示は主治医の意見書を基に作成し、こどもの状況について、関わる職員全体で共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	29	0	主治医の指示書に基づいて除去食を提供している。個別の献立表を作成し保護者と除去内容を共有している。食札や食器の色を変え、また、複数名で確認して配膳間違いや誤食がないよう取り組んでいる。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	26	1	安全計画を作成している。日々の安全点検に加え、毎月安全点検を行い、速やかな安全対策を行っている。感染症対策について、定期的にマニュアルの確認を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	24	3	安全点検や訓練の実施について重要事項説明で説明している。緊急時の保護者への連絡手段としてメール連絡を整備している。令和6年度からはICTシステムを導入。	HPやICTシステムを活用して、取り組み内容を分かりやすく周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	29	0	毎朝ミーティングで報告し、対応について職員で共有している。詳細を記載した記録の回覧も行っている。集計を取り再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	29	0	虐待防止委員会を設置し、職員研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	29	0	身体拘束適正化のための指針を策定している。やむを得ない身体拘束については保護者に説明の上同意書を提出いただいている。また、個別支援計画に記載し、保護者と確認している。	